

令和2年9月25日

道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書Ⅲに係る回答書

突哨山運営協議会役員会
代表 出羽 寛 様

比布町長 村中 一徳



日頃より、突哨山及び周辺の自然・環境の保全事業等に御尽力いただきまして、大変ありがとうございます。

早速ですが、2020（令和2年）年7月28日付けで提出がありました、道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書Ⅲをいただき、その内容確認とこれまでの総括として、令和2年9月10日に第4回ワークショップを開催したところ、多くの方の出席をいただきまして、ありがとうございました。

ワークショップでは基本項目として5つの協議が行われましたので要点を報告しますが、詳細については別添「第4回ワークショップ議事録」のとおりとなります。

1つめとして『カタクリの移植について』ですが、こちらは道道昇格後の改良工事時に併せ、現町道付近にブロック移植にて移植するという事で合意をいただきました。時期は春の繁殖期を外し、鱗茎の深さを確認後に移植する事とします。こちらは比布町で対応致します。

2つめとして『法面緑化について』ですが、法面緑化の際は現地のすき取り土を再利用し、埋土種子の発芽に期待した法面処理を考えています。こちらは改良工事時に対応致します。

3つめとして『側溝の形状等について』ですが、水生生物の移動を考えて横断水路を四角型の物を使用する事や、小動物の脱出用（斜路トラフ）の設置検討については、道道昇格後の実施設計において調査結果と照合し、三者（協議会、道、町）で現地を確認しながら設置位置や・形状等を設計に反映する事を考えています。こちらは工事設

計時に対応致します。

4つめとして『ロードキル対策について』ですが、大型動物のロードキル対策については抜本的な対策は出来かねますが、供用後に事故等が多いようであれば、注意標識などで、対応していきたいと考えています。こちらは供用後の状況を見ながら比布町で対応致します。

5つめとして『ノスリの営巣について』ですが、工事年の早春に営巣するかの確認を行い、巣作りが行われている場合は、工事時期や施工順序にできる限り配慮して施工する事を考えています。調査時には、三者(協議会、道、町)で行う事として考えています。

以上となりますが、会議内でもありました様に、現段階での問題点については整理されていると思われますので、今後については詳細設計時や工事実施時に協議を行いながら事業を推進していきたいと考えていますので、これからもご協力よろしくお願ひ致します。

担当：比布町役場建設課
課長補佐 大谷
直通：0166-85-4807

道道鷹栖東鷹栖比布線改良工事を想定とした第4回ワークショップ議事録

R2.9.10 10時～ 役場第2会議室

- ◆出席者：(突哨山運営協議会)：出羽会長、黒川副会長、桐氏、澤田氏、舟橋氏、木村氏、中村氏
(比布町)：総務企画課 齋藤係長
建設課 大谷補佐、武田技師

- ◆概要：
 - ・突哨山運営協議会、比布町との意見交換会
 - ・第1回(H31.4.17)、第2回(R1.5.7 現地視察)、第3回(R1.12.4)、比布トンネル現地視察(R2.4.23)に続き、第4回目のワークショップを開催
 - ・これまでの打ち合わせ総括及び要望書Ⅲの内容確認及び今後について

◆協議内容

- はじめに：これまでの協議内容の再確認と要望書Ⅲの内容を確認し、現在考えられる環境への対策を説明(比布町)

1. カタクリの移植について

R1.5.7に行った現地視察で道路改良予定地での現地調査にてカタクリの群生地を発見し、計画ルートを回避することを検討したが、沢地を縦断する事での事業費増、沼地の湿性植物等の影響等に加え、線形を変えることにより、本来の目的である安全で走行しやすい線形への改良という目的から乖離する等の協議を重ね、現計画案で事業を進めてよいと合意をいただいている。

カタクリの保全について、比布トンネル工事時の移植事例を調べたところ、工法としてはブロック移植で行うと、カタクリの鱗茎だけでなく、マイズルソウやエゾエンゴサクなど他の野草類も同時に移植することができるため、より早期に自然環境を復元することが期待できるとの結果でした。

移植後の現在の状況を確認するために、R2.4.23に協議会の皆様と比布トンネル移植地の現地調査を行い、生育も順調であるため、有効な手段であると認識している。

移植の工法としては、協議会より提案があったように、道道移管後の現町道部のアスファルトを撤去後、覆土を行い現場付近にブロック移植にてカタクリ等を移植することで現在考えている。

また、先日いただいた要望書Ⅲに記載されていましたが、鱗茎に影響が少ないと考えられる厚さが30cm程度でいいのか？というご意見については、移植前に試掘し、鱗茎の深さを確認する事を考えている。

これらについては、比布町で対応する事とする。

2. 法面緑化について

以前報告している件の再確認となります。

在来種の保全は大切と考えており、法面緑化の際には現地のすき取り土(自生している草木類の根)を再利用し、埋土種子の発芽に期待した法面処理を考えている。

こちらは、北海道の工事で対応する事とする。

3. 周囲動物の配慮について

以前報告している件の再確認となります。

大型動物のロードキル対策については抜本的な対策は出来かねますが、供用後に事故等が多いようであれば、注意標識などで、対応していきたいと考えている。

こちらは、比布町で対応する事とする。

水生生物の移動を考えて横断水路を四角型の物を使用する事や、小動物の脱出用（斜路トラフ）の設置検討については、道道昇格後の実施設計において調査結果と照合し、三者（協議会、道、町）で現地を確認しながら設置位置や・形状等を設計に反映する事とする。

これらの小さな配慮を総称して、エコロードとお考えいただきたいと思います。

こちらは、北海道の設計時に対応する事とする。

先日いただいた要望書にありました、ノスリの営巣については、早春に営巣するかの確認が必要であり、巣作りが行われている場合は、基本的に営巣から巣立ちまで工事期間を外した方がよいというご意見ですが、この事については工事年の早春に営巣するかの確認を行い、巣作りが行われている場合は、営巣から巣立ちまで工事期間を外す。もしくは、工事を行う場合にはなるべく遠い位置から工事を開始するなど、工事時期や施工順序にできる限り配慮して施工する事とする。

また車両の通行より樹木の伐採の影響が大きいと思われるので慎重な対応が必要である、という意見についても工事時期を配慮して施工する事とする。

こちらは、北海道の工事で対応する事とする。

以上、これまでの協議内容の再確認と、先日いただいた要望書Ⅲの回答を報告しましたが、先ほど説明した様に道道昇格後の詳細設計時に協議して決定しなくてはならない事や、工期設定や順番等、工事実施時に配慮する点もありますが、今現在考えられる問題点については整理できてきているのではないかと考えている。（以上 比布町説明）

●今後考えられる事項等

1. カタクリの移植について

- ・移植のタイミングは、春の繁殖期を終えてカタクリが養分を蓄える時期を外すのが望ましい。時間的には長い期間を要しないので、工事開始予想時期には問題ないと考えられる。（協議会）
- ・カタクリの鱗茎（根）は大体 20 cm程度ある、移植で取り出す際や仮移植する際に慎重に行うと良い。（協議会）
- ・6月末くらいには花や葉が落ちて周りとの区別がつきにくくなるので、前年の花期に移植する箇所に印を付けておくと判りやすいと思う。（協議会）
- ・過去の比布トンネルの工事で仮移植した事例とこれらの事を参考にしながら、お互いに協議して比布町が行う事とする。（比布町）

2. 法面緑化について

- ・法面処理の際に外来植物を取り除くとあるが、一度だけではあまり意味がないので定期的に行うのが望ましい。経済的にも難しいかとも思うので町でボランティア等を企画してくれると助かる。(協議会)
- ・今回の工事で行う予定なのは、今ある外来植物を取り除く程度で、定期的な除去は考えていない。(比布町)

3. 側溝の形状等について

- ・今の突哨山付近の側溝は幅 50 cm程度で動物はうまく飛び越えたりしているが水生生物や虫が落ちるとそのまま上がれないことがあるので対策が望ましい。また、一般的な側溝の幅はどの位か？(協議会)
- ・計画水量にもよるが、周囲からの流れ込み等の影響を考えない場合、基本的に 30 cm程度の側溝が使われるが、この場所は山なので沢水等の処理があるので大きくなるのが想定されるため、現地の状況に応じて対応する。(比布町)

4. ロードキル対策について

- ・突哨山付近では毎年多くの生き物がロードキルで死んでいる。道道昇格し交通量が増えることにより、ロードキルで死ぬ生き物が増えることが予想されるため動物用の橋やアンダーパス等の対策をしてほしい。(協議会)
- ・改良工事の中では動物用の道路や看板の設置はできないので、今後の事故状況に応じて町で対応する。アンダーパスについては、考えていない。(比布町)

5. ノスリの営巣等について

- ・春から夏にかけての巣作りから産卵の時期は敏感になっているため、工事は避けることが望ましい。(協議会)
- ・工事の開始時期と前回調査を行った時期とでは、かなり時間が空いてしまうため、同じ場所で巣作りをしているのか等の調査を行う必要がある。調査に行く際は、同行したい。
- ・営巣確認や、斜路付きトラフの設置場所の提案については、道に専門的な人がいるのかコンサルに頼むのか？(協議会)
- ・工事時期を避ける事や、工事自体は開始しても巣から遠い箇所から施工するなど、工夫して工事を行う様に北海道に要望している。トラフの設置場所の提案については、コンサルで行う事が予想される。営巣調査については、北海道、協議会、町で協議を行い実施したい。(比布町)

6. 道道昇格について

- ・現時点での要望は解決していると思うので、このまま次の段階に話を進めてもらって構わない。できるだけ早く昇格要望して欲しい。(協議会)
 - ・エコロード的な扱いで進んでおり、あまり事例の無い良い方向に向かっていると思うので、このまま進んで欲しい。(協議会)
 - ・環境を守ることも大事だが、何より人命を優先させるべきだと思うので、冬場滑りやすく事故も多い事から早急に工事を進めてほしい。(協議会)
 - ・要望を聞き入れてくれているので信頼関係で成り立っていると思うので、後は見守って行きたいと思っている。(協議会)
 - ・今現在で新たな大きな問題もないと思うので、このまま順調にいけば早い段階の昇格に期待が持てる。(協議会)
 - ・危険な箇所を早く直してもらうのが望ましい。色々な意見・要望も出ていたようだが、協議していただいているので、いい事だと思う。他ではあまり無いことだと思う。ある程度纏まれば早めに昇格してもらっていいと思う。(協議会)
-
- ・要望書Ⅲの回答として今回の議事録を整理したものを提出する。その後問題がなければ、現段階での要望は整理されている旨の回答を戴きたい。その後来年度の道道昇格要望に向け進んでいきたい。(比布町)